

開館一周年記念特別展

狹山の指さ文化祭



開館一周年記念特別展

狭山の指定文化財

会期 平成4年10月24日(土)～11月23日(月)
会場 狹山市立博物館／企画展示室

ごあいさつ

狹山市立博物館は、市制施行35周年記念事業の一環として建設され、平成3年11月1日に開館して以来、多くの方々の深いご理解とご協力のもとに1周年を迎えることができました。

この博物館は、桜、つつじなどの名所として知られる稲荷山公園内に位置し、しかも駅前という好立地条件に恵まれ、市民はもとより近郊からも多くの人々が訪れ、緑と健康で豊かな文化都市を標榜している当市の社会教育の中心的施設として事業を展開しているところあります。

急激な社会情勢の変化や人口増加等から生ずる市民意識の希薄化や地域コミュニティの欠如感等が指摘されるなか、多様化・高度化する学習要求に応えるとともに、地域に根づき、地域社会形成に寄与する活動をさらに推進して参りたいと考えているところあります。

さて、このたび開館1周年を記念して、特別展「狹山の指定文化財」を開催する運びとなりました。

私たち祖先の残してきた文化遺産は、生活様式の変化から徐々に失われつつあります。当市では早くからこれらの文化遺産を指定し、市民の協力のもとに保護して参りました。今回の特別展を通して、郷土狹山への認識を一層深め、市民一人ひとりが貴重な文化財を保護し、次の世代に継承してゆく一助となれば幸いです。

末筆となりましたが、本特別展の開催にあたり、貴重な資料の出品を快く承諾くださいました文化財所有者の方々、ならびに関係者の方々に厚くお礼申し上げます。

平成4年10月24日

狹山市教育委員会
教育長 武居 富雄

開催にあたって

武藏野の台地と入間川の清流に育まれた狭山市には、数々の文化財が残されています。これら、地域にねぎした文化財は、狭山市の歴史を知る上でたいへん貴重なものです。

当市では、これらの文化財のうち「歴史上又は芸術上価値の高いもの」や「私たちの生活の推移の理解のため欠くことのできないもの」を指定し、その数も48件（県指定文化財7件、市指定文化財41件）に及んでおり、それぞれが地域の方々により大切に保護されています。

今回の特別展は、身近にありながら日頃接することの少ない文化財を一堂に集め、「建造物」「絵画」「彫刻」「工芸品」「書跡」「古文書」等の指定種別ごとに、実物や写真パネルで展示しました。

市内の文化財に接することで、郷土狭山に一層親しみを感じていただくとともに、狭山の歴史への理解を深める助けともなれば幸いです。

最後になりましたが、本特別展の開催にあたり、貴重な資料の出品を快くご承諾くださいました文化財所有者、管理者の方々に深く感謝申し上げます。

平成4年10月24日

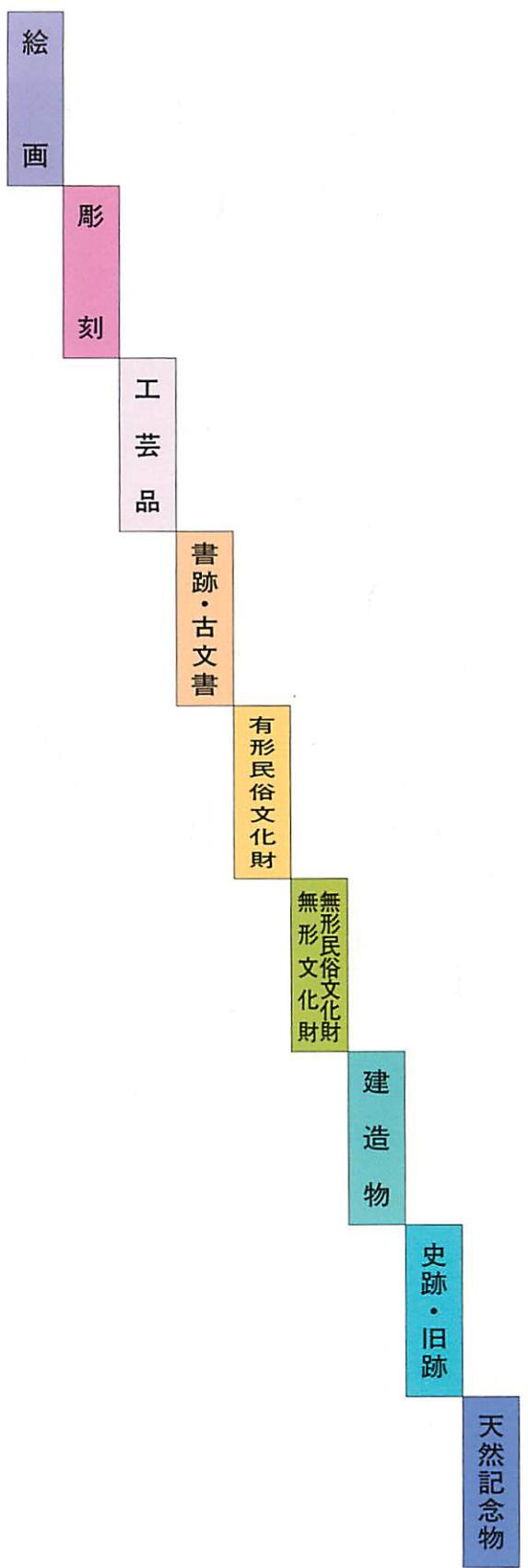
狹山市立博物館
館長 久保田 福造

目 次

ごあいさつ	3
開催にあたって	5
目次・凡例	6
絵画	8
彫刻	20
工芸品	27
書跡・古文書	34
有形民俗文化財	38
無形民俗文化財/無形文化財	40
建造物	43
史跡・旧跡	47
天然記念物	51
指定文化財一覧	53
協力者一覧	55
参考文献	55

凡 例

- ・この図録は、平成4年10月24日(土)から11月23日(月)まで開催する狭山市立博物館開館一周年記念特別展「狭山の指定文化財」の図録である。
- ・会期中に展示替えを行うため、図録収録の資料でも会場に展示されない場合がある。また、天然記念物など資料の性格上移動できないものについては、写真等で紹介している。
- ・図録の図版番号は展示資料番号に一致する。ただし、展示順序は必ずしも番号順とは限らない。
- ・資料の名称は、原則として狭山市及び埼玉県の指定名称を用いた。
- ・本展示及び図録の編集は、狭山市立博物館で行ったが、教育委員会社会教育課の協力を得た。





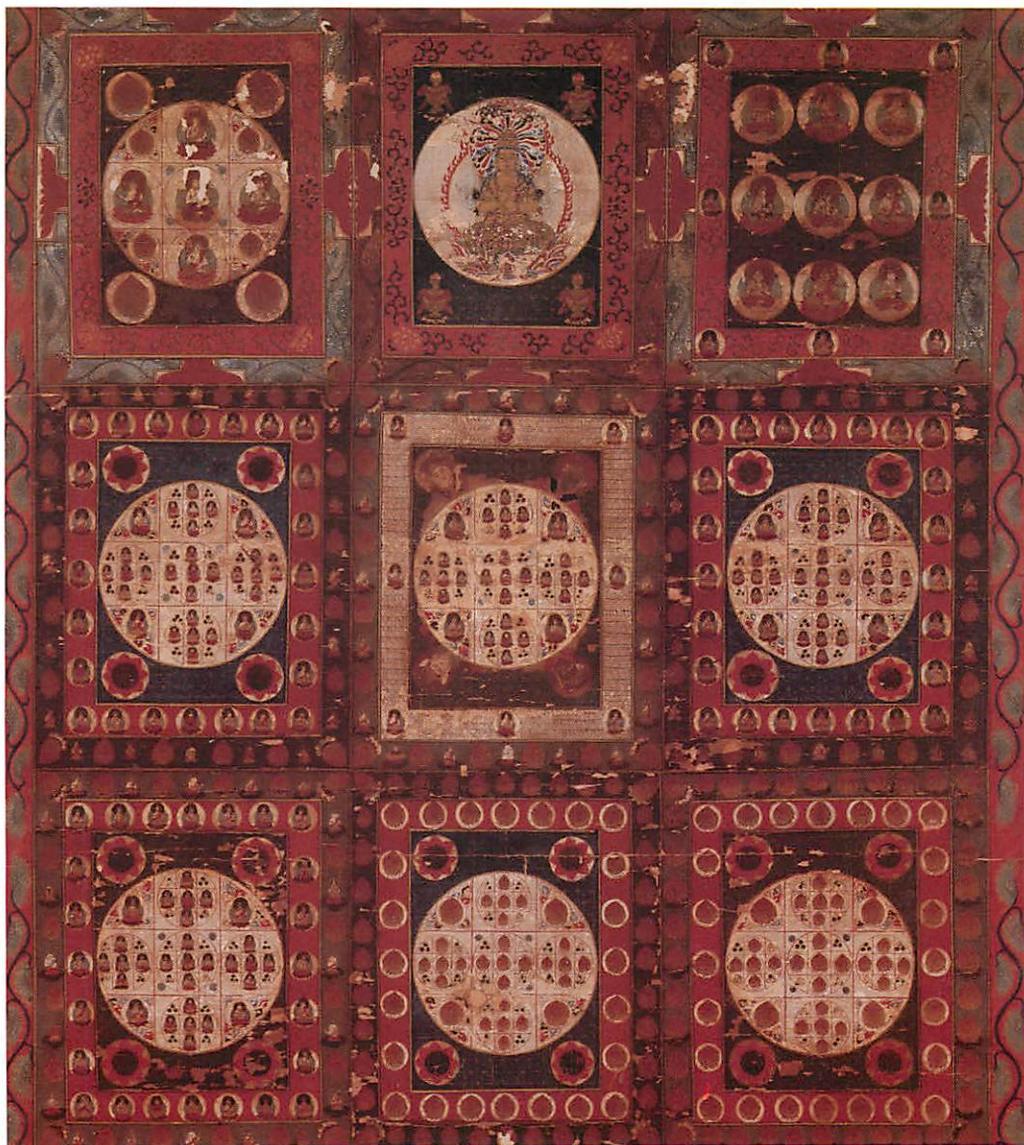
胎藏界曼茶羅

し ほんちやくしょくりょうかいまん だ ら
1. 紙本着色両界曼茶羅

縦 90.5cm 横 81.0cm

瑞光寺所蔵

両界曼茶羅とは、こんごうかい金剛界曼茶羅とたいぞうかい胎藏界曼茶羅からなる2幅の絵画です。密教の教理を説明するものとして、方形に区画した中に諸仏が描かれてあります。本図は、室町時代前期の作と推定される貴重なものです。



金剛界曼茶羅



2. 紙本地蔵十王図（付他二幅）

縦 93.0cm 横 39.0cm

明光寺所蔵

地蔵菩薩像をはじめとして、十王の像を別々に紙に極彩色で描いたものです。一般に、十王図は、脱衣婆をいっしょに描き、12幅を組にするのがよくみられますが、これは、修羅の図を加え13幅になっています。

〈十王〉

冥界で亡者の罪を裁く十人の王で、秦広王・初江王・宗帝王・五
かんのう
えんまおう
へんじょうおう
たいせんのう
ぎょう
官王・閻魔王・變成王・太山王・平
どうおう
としおう
ごどうてんりんのう
等王・都市王・五道転輪王のことである。







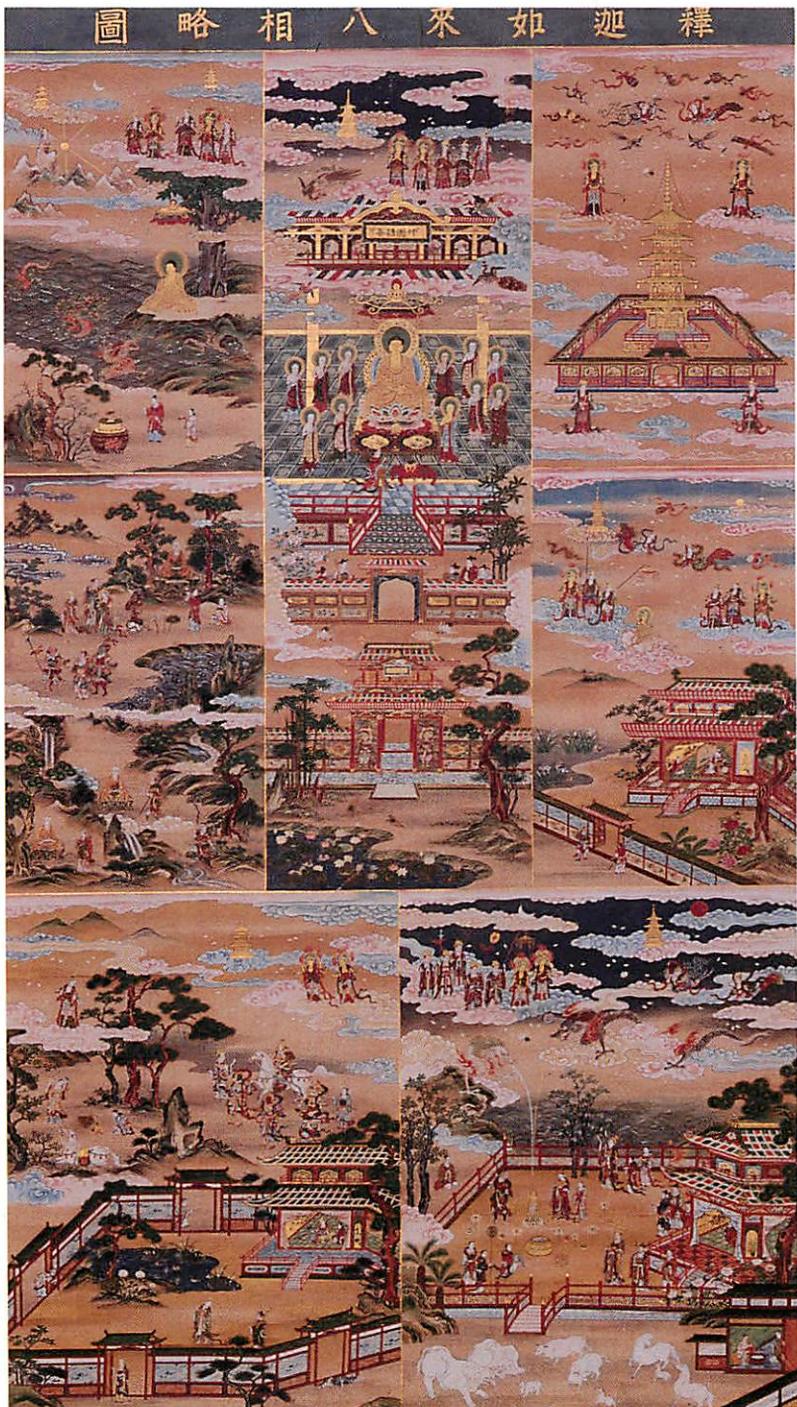


3 絹本着色釈迦涅槃図

縦 177.5cm 横 104.0cm

徳林寺所蔵

釈迦の臨終に際し、弟子をはじめ諸王、大臣、
梵釈、諸天から鳥獸に至るまで、ともに集まって
悲しんでいる様子を描いたものです。



<八相>

第一下天相、第二託胎相、第三誕生相、第四出家相、第五降魔相、第六成道相、第七初転法輪相、第八涅槃相の八場面をいいます。

4 絹本着色釈迦八相図

縦 188.5cm 横 105.0cm
徳林寺所蔵

釈迦の生涯における8つの事跡を描いたものです。



5 仙人の図

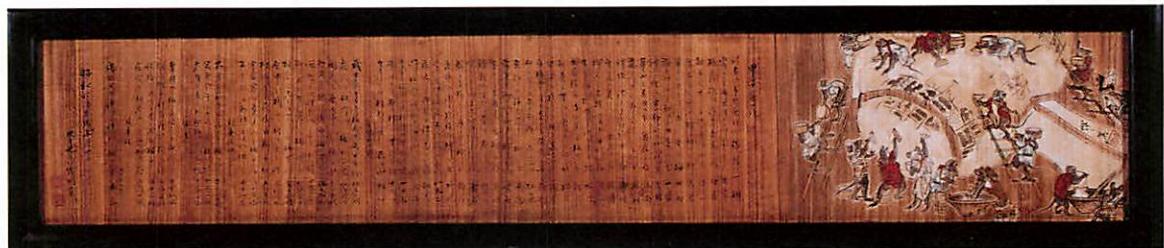
縦 150.0cm 横 40.0cm

小谷野利三氏所蔵

鉄拐と蝦蟆が1幅ずつ描かれ、2幅で1対をなしています。柴田是真(1807~1891)による江戸時代末期の作で、狭山にこの図があるのは、是真がおかげ絵師として、豪商・綿貫家に滞在していたからだと伝えられています。



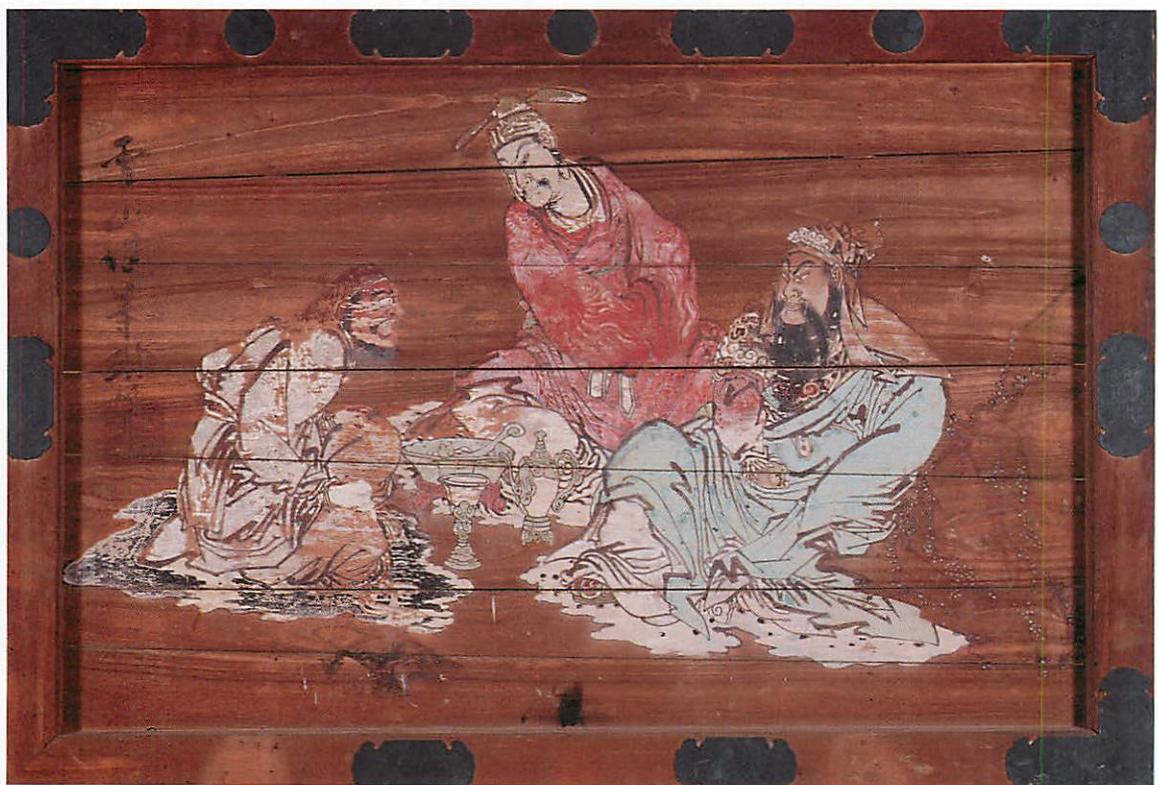
蝦 蟆



6 ねずみの図

縦 60.0cm 横 210.0cm (額の大きさ)
西浄寺所蔵

この絵は、甲子大黒天にちなんだもので、大黒の使いであるねずみがうちでの小づちを作っているところを描いたものです。作者の河鍋暁斎(1831~1889)は、明治画壇の大家であり、西浄寺をたびたび訪れたということです。



7 桃園三傑図

縦 125.0cm 横 180.0cm
梅宮神社所蔵

中国の三国時代の英雄劉備玄徳、勇猛の武人として知られる関羽、張飛の三人が、兄弟の盟を結ぶさまが描かれています。作者は雲谷派の画家、雪山堤等琳(江戸後期)です。



<韋馱天>

護法神・伽藍守護神として寺院にまつられるのですが、魔王が仏舎利を奪って逃げたとき追いかけて取り返したという話から、足の速い者のたとえに用いられるようになりました。

8 白鬚神社韋馱天の額

左右の高さ 113.0cm

中央の高さ 131.0cm

横 179.0cm

白鬚神社所蔵

絵馬様式の額で、韋馱天が宝棒をふりあげて魔王を追いかけているところです。



9 慈眼寺阿弥陀如來像

像高 73.0cm

慈眼寺所蔵

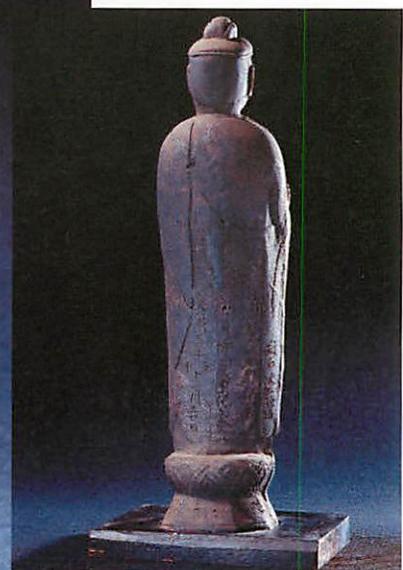
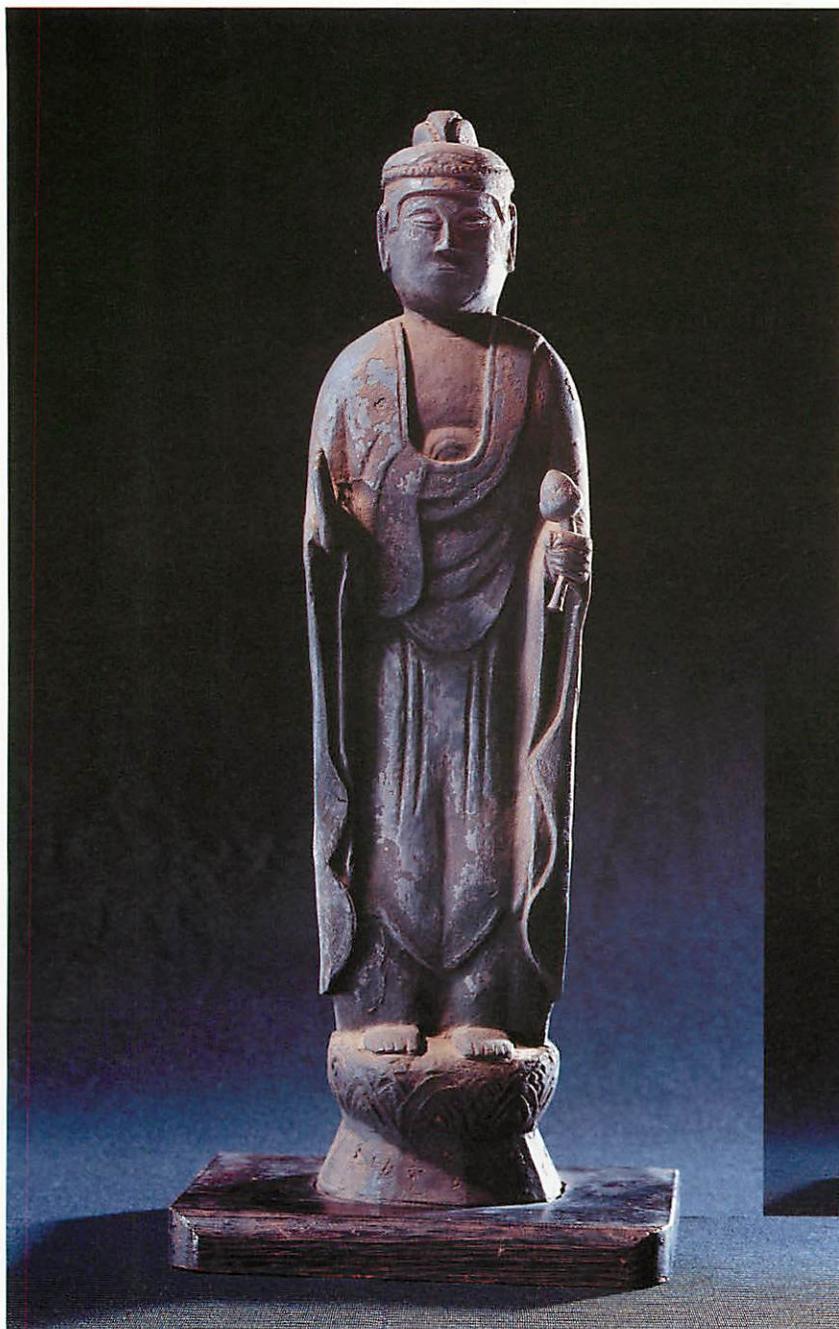
この像は一本造りで、均整のとれた姿と豊かな顔立ちをしています。金箔を置いた漆箔技法で仕上げられており、その金箔がわずかに残っています。鎌倉時代頃の作と思われます。



10 木造地蔵菩薩立像

像高 79.0cm 台座高 31.0cm
金剛院所蔵

左手に宝珠、右手に錫杖を持つ比丘形の像です。
童子のような柔軟な顔立ちと穏やかさは、衆生を
救済するにふさわしい容姿です。



〈銘文（背面）〉

II 銅像聖觀世音菩薩立像

像高 41.8cm 台座高 6.3cm
円光寺所蔵

元亀3年(1572)に造られた像です。背面の銘文により、庚申供養の本尊として柏原の大工(鑄物師)・神田氏が鋳造したことがわかります。

敬白 大工神田
武州高麗郡柏原
円光寺庚申供養
元亀三年十一月吉日
常運施主



12 木造聖觀世音菩薩坐像

像高 54.0cm 台座高 32.0cm
常泉寺所蔵

その昔、大干ばつがあり、この観世音菩薩に祈り七曲井をさらったところ、たちまち清水が涌きましたという故事があって、七曲井の守り菩薩ともなりました。江戸時代後期の川越の彫仏師・大覚の作です。



13 木造千手觀世音菩薩坐像

像高 64.4cm

禪龍寺所藏

この像は禅龍寺所属の観音堂の本尊で、室町時代末期から江戸時代初期の制作と推定されます。



14 木造宝冠釈迦如來坐像

像高 38.0cm

台座高 56.0cm

宗源寺所蔵

この像は、宗源寺の本尊です。口元から少し白い歯をのぞかせており、歯仏とか、微笑釈迦如来ともいわれています。本堂改築のとき発見された棟札により、宝暦12年(1762)4月8日に奉安されたことがわかります。



せいいたか
制吒迦童子

こんから
矜羯羅童子

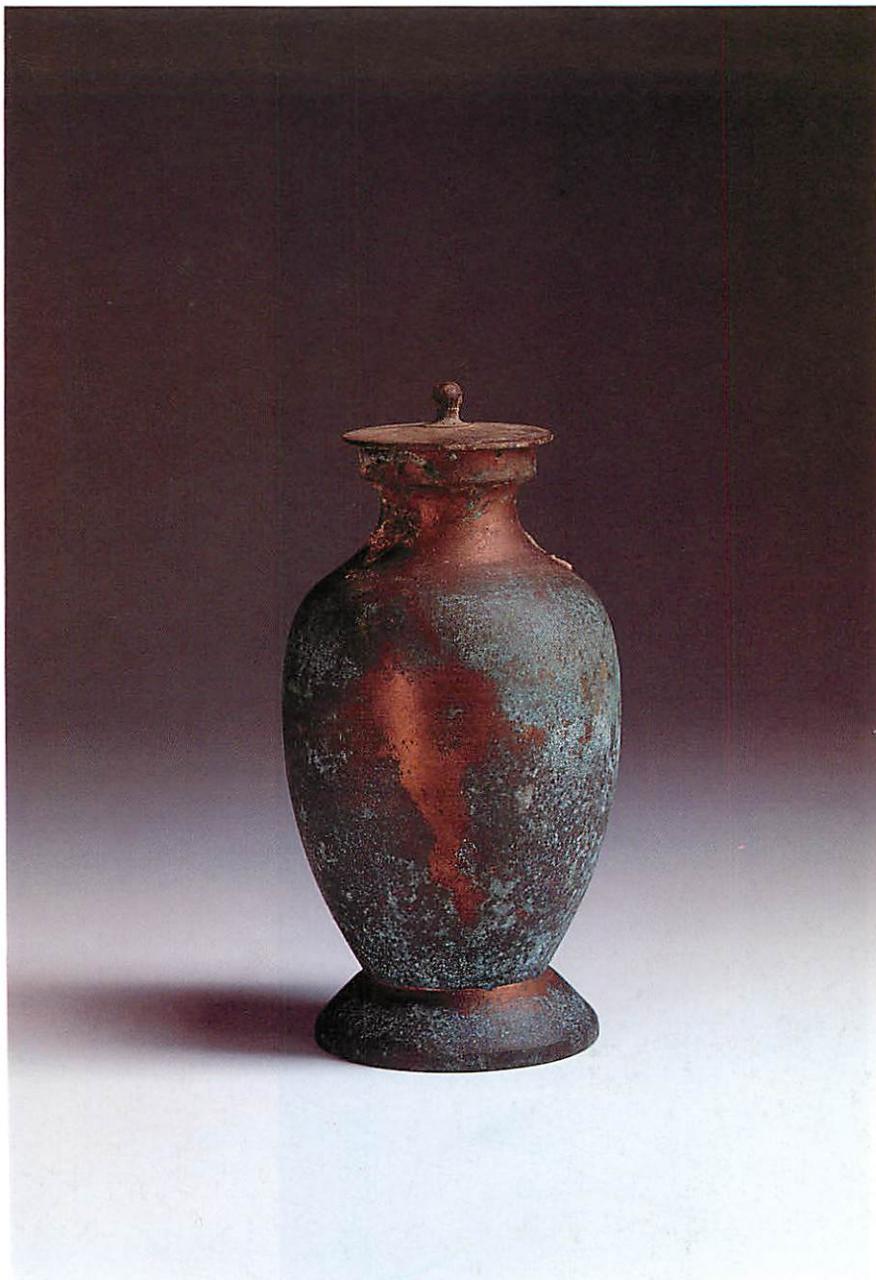
15 木造不動明王及び二童子立像

不動明王像高 72.2cm

二童子像高 41.7cm

永代寺所蔵

不動明王が、2人の童子を従えた1組の像です。
いずれも玉眼入りの寄木造りで、江戸時代初期の
作と推定されます。

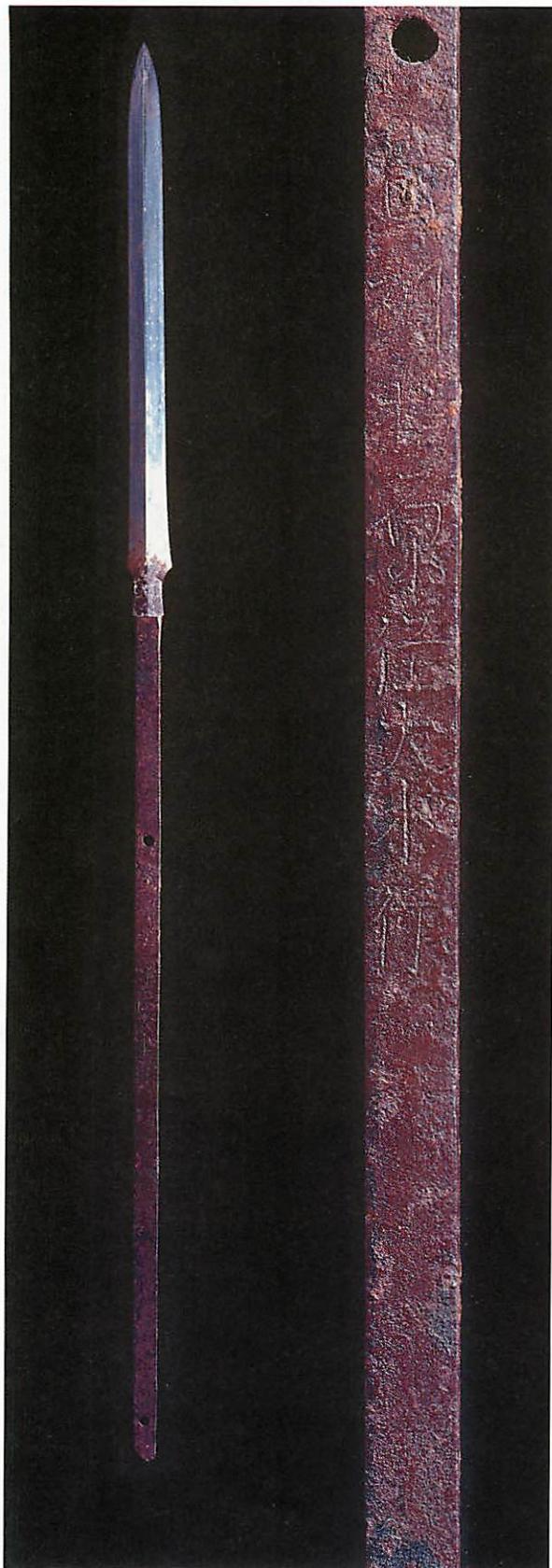
16 さはりの壺 県指定
つぼ

高さ 17.5cm 最大径 10.0cm
八幡神社所蔵

大正12年（1923）に八幡神社本殿を現在地に移転した際発見されたものです。室町時代頃神社を創建したとき、地鎮として供えた鎮物を埋納するときに用いた「鎮壇具」であると推測されています。

〈さはり〉

銅を主として錫・鉛（または銀）
を加えた黄白色の合金で、たたく
とよい音がします。



17 大水作鎧
たいすいさくやり

穂先の長さ 23.5cm 幅1.6cm
全長 67.8cm
増田順一氏所蔵

柏原の鎗鍛治師、増田大水の応永32年（1425）の作であり、歴史的にみて価値の高いものです。「武州柏原住大水作」という銘文が刻まれています。



〈銘文〉 奉武州入東郡奥留郷西方澁梅宮鰐口
応永三十三年五月三日

18 梅宮神社鰐口
うめのみやじんじやねにぐち

直径 14.0cm
梅宮神社所蔵

この鰐口は、もと梅宮神社別当寺のもので、現在片面のみが残っています。それに刻まれている文字から、奥富が「入東郡奥留郷」と呼ばれていたことや、応永33年（1426）に奉納されたことがわかります。

于時天正十八年庚寅
刀十一月廿一日 大工
神田宮内



大日本國武州高麗郡柏原村住施主神田市
右衛門

直径 30.0cm

于時天正十八年庚寅
刀十一月吉日 大工
神田宮内



大日本國武州高麗郡柏原之村住吉田太郎
左衛門

直径 29.0cm

于時天正十九年辛卯四月吉日施主敬白



奉納武州高麗郡柏原村之住神田半十郎

直径 20.0cm

武州高麗郡柏原施主神田図書助



天正十九年辛卯 九月吉日 同大久

直径 31.0cm

慶長十六年辛亥 二月十五日敬白

奉納武州高麗郡柏原之村原藤一郎兵衛寄
進也



直径 23.0cm

19 御正体（懸仏）

白鬚神社所蔵

全部で5面あり、どれも十一面觀世音菩薩像を表す円鏡型のもので、柏原村の鋳物師・神田氏の鋳造によるものです。



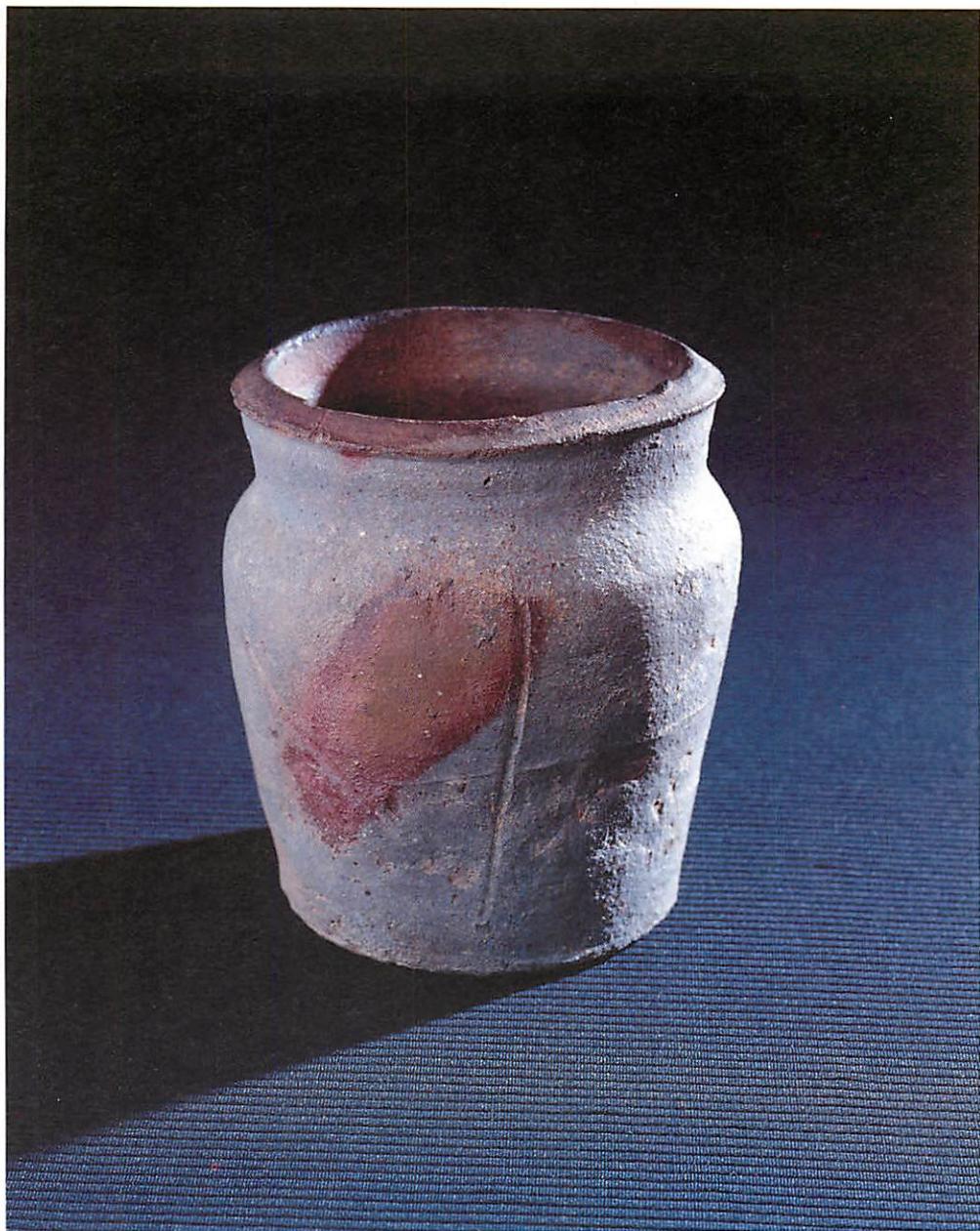
20 神輿

下かまち縦横 122.0cm

屋根上鳳凰までの高さ 228.0cm

広瀬神社所蔵

元治元年（1864）に、上広瀬村の名主、清水寛右衛門宗宝によって奉納されたものです。作者は、当所大工・横田長太夫です。



21 野々宮神社古代甕
の のみやじんじや こだいがめ

口径 13.0cm 底径 12.0cm

高さ 16.0cm

野々宮神社所蔵

奈良時代から平安時代初期につくられたと推定される、酒を入れ神前に供えた祭具です。つみあげ方式で作られ、一部に薄い赤かっ色の釉がかけられています。



武州袖保内并高麗郡年行事職

事御代々御下知以下證文等國錯亂

砌紛失之旨慥被捧請文之條被成奉書

訖然上は可被全領知之由乘々院

大僧正御方所被仰下也仍執達如件

享禄五年五月朔日 法橋秀榮（花押）

法橋扶延（花押）

武州袖保内并高麗郡年行事職
事御代々御下知以下證文等國錯亂
砌紛失之旨慥被捧請文之條被成奉書
訖然上是可被全領知之由乘々院
大僧正御方所被仰下也仍執達如件
大僧正御方所被仰下也仍執達如件

觀音堂御報

享禄五年五月朔日 法橋秀榮（花押）

法橋扶延（花押）

觀音堂御報

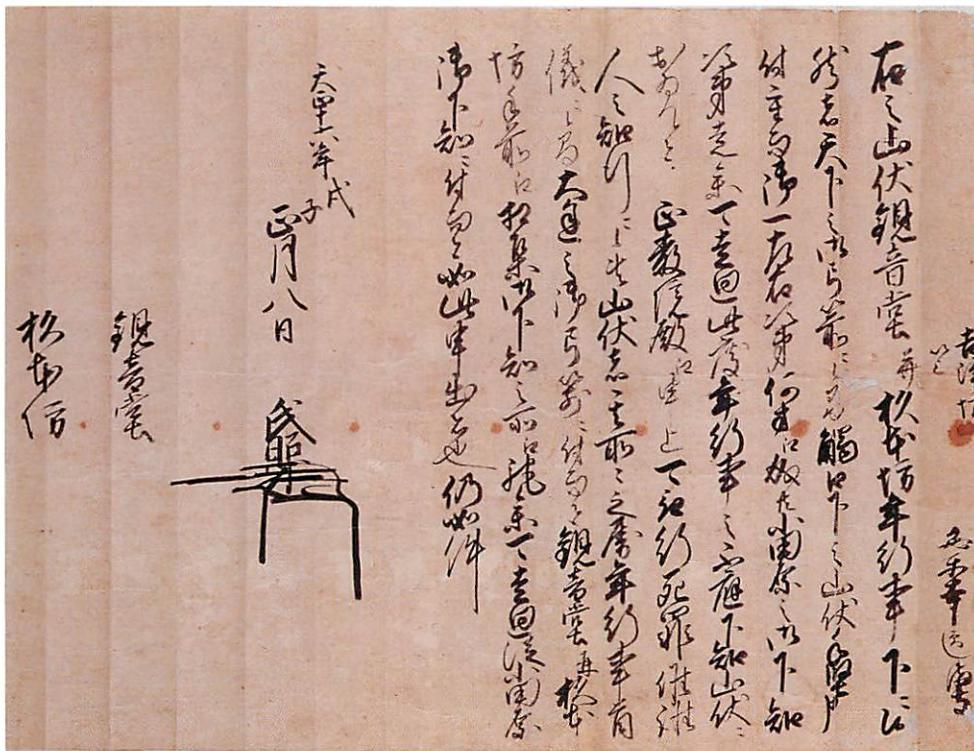
22 篠井家文書 県指定

篠井良勝氏所蔵

室町期修驗関係文書16通です。

篠井家は、江戸時代まで笛井観音堂（滝音山泊山寺）と呼ばれていた本山派修驗・聖護院末28院の1つの寺院でした。

室町期以降、この観音堂が、所沢・三ヶ島・山口・宮寺などを含めた主に高麗郡一帯の年行事職を勤め、また、配下の修驗を引き連れ軍役にもついていたことが、篠井家文書から読みとれます。



吉淨坊 龜東寺 邊滿寺

以上

右之山伏觀音堂并杉本坊年行事下に候

然は天下之御弓箭に候間觸口下之山伏手堅申
付重て御一左右次第何方江成共小田原之御下知

次第走参可走廻此度年行事之不應下知山伏に
あぬては正巣院殿江申上可被行死罪候誰

人之知行に候共山伏は其所々之属年行事旨

儀に候間大途之御弓箭に付ては觀音堂并杉本
坊手前江相集御下知之所江馳參可走廻從小田原

御下知に付ては如此申出者也仍如件

拂不加付乞之此事當是仍如件

正月八日 氏照(花押)

觀音堂 杉本坊

松本坊
觀音堂

天正十六年子

正月八日

龜東寺



広瀬村境界絵図面（元禄 3年） 縦395.0cm 横331.0cm

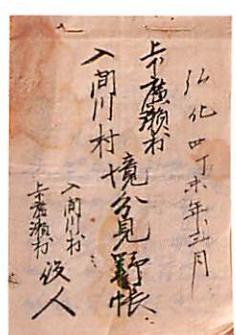


広瀬村境界絵図面（弘化 4年） 縦108.0cm 横232.0cm

23 広瀬村境界絵図面及び分見野帳

山崎滋夫氏所蔵

江戸時代、入間川の氾濫などで変化した村境を
めぐって両岸の村で争いが絶えませんでした。そ
のため村境を明らかにするために描かれたのがこ
の絵図です。



分見野帳（弘化 4年）



24 梅宮神社神号 書跡

縦 43.7cm 横115.6cm
梅宮神社所蔵

筆者は、江戸時代後期の儒学者・龜田鵬斎
(1752~1826) で、草書の名手です。折衷学派に
属して、「寛政異学の禁」では異端の筆頭とされま
した。



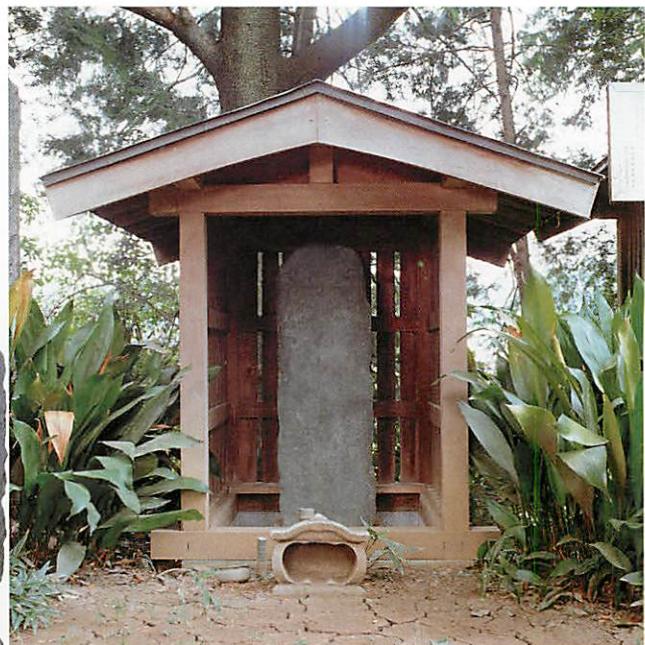
25 天岑寺月待供養の碑

縦 129.0cm 横 39.0cm

天岑寺

この碑には、阿弥陀三尊来迎図が描かれており、
文明14年（1482）という年号が読み取れます。

板石塔婆（板碑）は、中世に追善・逆修供養の
ために建てられたもので、市内に約300基残ってい
ますが、代表的なもの一つがこれです。



〈月待〉

月の出を待つ行事で、この夜に
講員が特定の宿に集まって飲食を
ともにしてさまざまな話し合いを
したというものです。この行事は、
月天を祝って、延命長寿・無事息
災を願って、十三夜・十七夜・二
十三夜などに行われました。



26 絵馬「子返しの図」

縦 44.3cm 横 81.7cm
白鬚神社所蔵

「間引き」をいましめるために、江戸時代末期に児玉新五郎が浅間神社に奉納したものです。現在、浅間神社は白鬚神社の境内に移されています。



27 入曾の獅子舞 県指定

入曾の獅子舞保存会

毎年10月14日、金剛院で揃い獅子を行い、翌15日に金剛院で前狂いを行い、入間野神社に全曲が奉納されます。「宝暦八年(1758)九月、当村中」と書かれた獅子舞の懸額が入間野神社にあるので、それ以前から行われていたものと思われます。



28 梅宮神社の甘酒祭 県指定

梅宮神社甘酒祭保存会

毎年2月の10日に座揃い、11日に頭屋祭が行われます。梅宮神社が奥富の地に分祀された(838)ころから始まったとされ、関東地方には珍しく、

京都地方に見られる頭屋祭の形式がいまもって受け継がれています。

29 広瀬囃子

広瀬囃子連

江戸時代末期（万延・文久年間）に、笛の林佐平、天狐の飯島喜十郎を中心におこりました。以来、神田古囃子を今に伝えています。

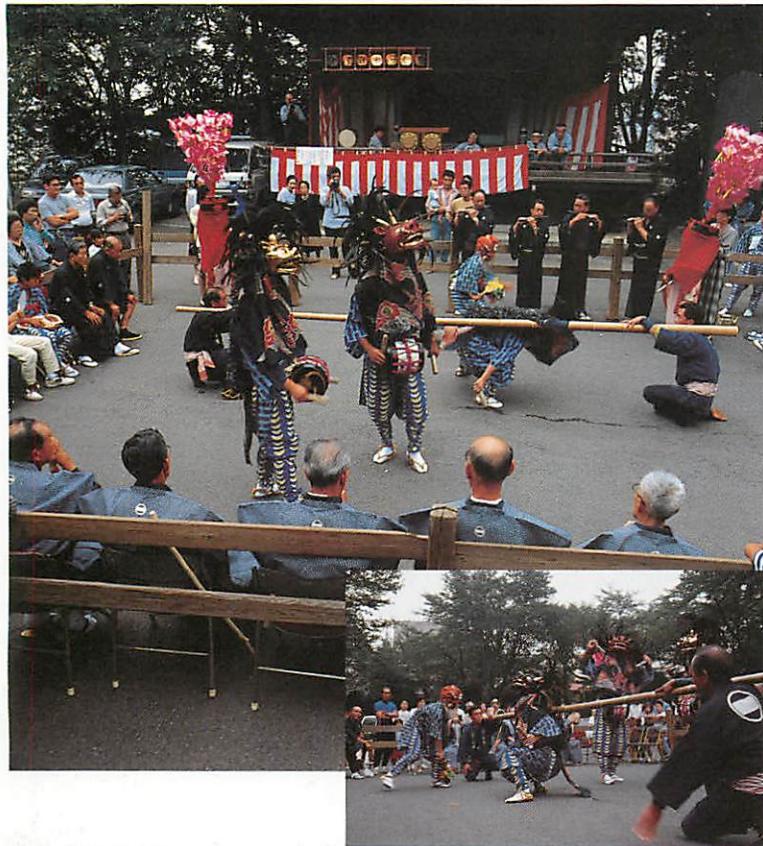


30 入曾囃子

入曾囃子保存会

地元にあった里神楽を土台に、文政年間(1818~1829)江戸徳丸より芸人を招き、田口保明など土地の有志に伝授されて始まったといわれています。





31 八幡神社鹿子舞
はちまんじんじや し しまい

入間川鹿子舞保存会

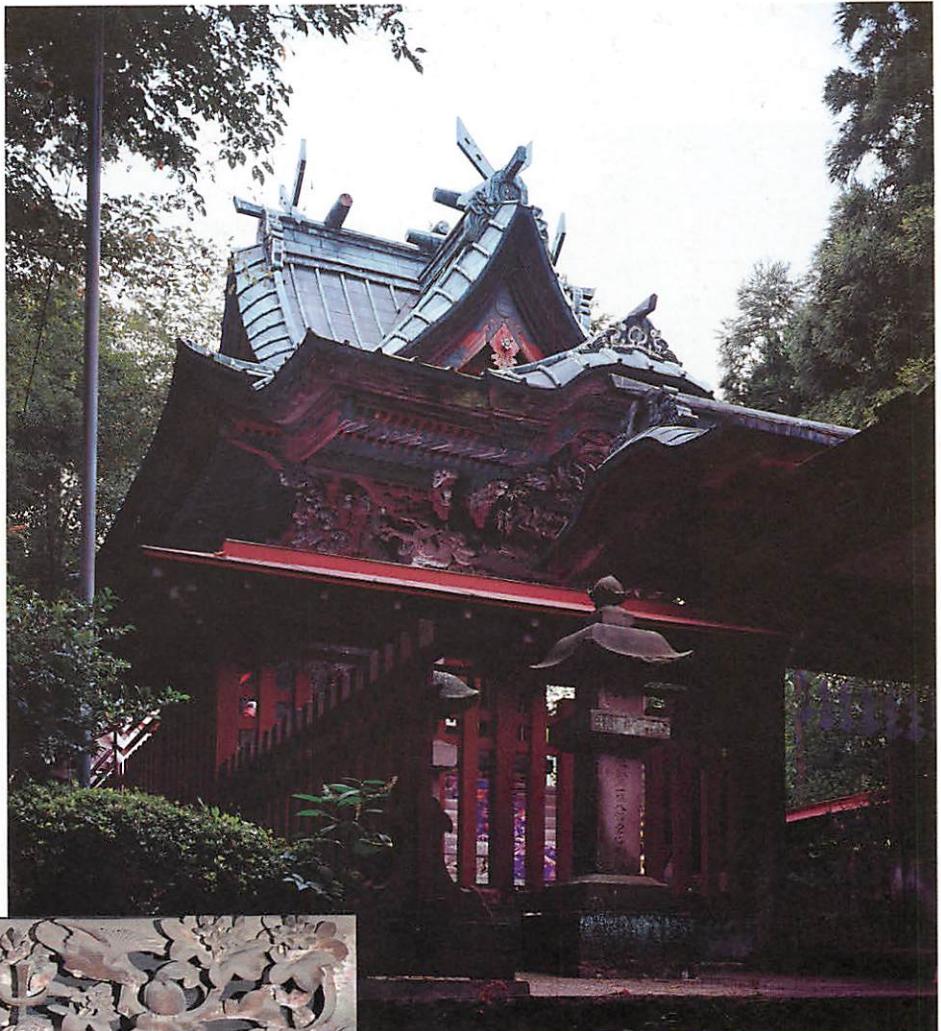
越後系、庭上舞、ねっこふんがえしに属するものです。また、古記録によれば、すでに300年前から盛大に行われていたということです。



32 笹井豊年足踊り 無形文化財
ささい ほうねんあしおど

笹井豊年足踊り保存会

毎年4月と10月に笹井の白鬚神社で行われます。この足踊りは、笹井囃子のなかの踊りのひとつで、一人の演者があお向きに寝て両足を立てて、足の甲にお面をつけ、衣裳を着せ、一方の足で「ひょっとこ」他方の足で「おかめ」を囃子に合わせて演ずるというものです。江戸時代後期から続いていることです。



透かし彫り

33 八幡神社本殿
はちまんじんじやほんでん

八幡神社

享和2年（1802）に再建されたと伝えられるもので、唐破風向拝付千鳥破風付入母屋造りという建築様式です。まわりのみごとな彫刻は、から縦彫りといつてもよいくらいです。



34 天岑寺惣門

表間口 3.64m 奥行 3 m

天岑寺

寛永(1624～1643)初期の建造と推定され、総檜材で、屋根は瓦葺切妻、門全体は沖縄風の様式が感じられます。明治3年(1870)の火災で惣門だけが創建当時のまま残ったものです。



35 広福寺山門

広福寺

この寺に伝わる古文書によると、文化2年(1805)に建てられたということです。袴腰が漆喰白壁ぬり、袴腰の上層は勾欄手すりをめぐらし、円柱に斜柱を施した入母屋造りの瓦葺屋根を持っているという関東には珍しい竜宮造りの建築様式です。



左大神



矢大神

36 随身門及び二神像

桁行 6.85m 梁行 4.12m

堀兼神社

随身門としては、市内で唯一のものです。万延元年（1860）の神像の塗替え仕様書により、創建は江戸時代後期と推定され、単層入母屋造りの八脚門です。二神像は豊磐門戸命と奇磐門戸命で、俗に矢大神、左大神と呼ばれています。

37 七曲井 県指定

直径 26m 深さ11.5m
常泉寺

飲料水を得ることが困難な武藏野台地では、豎掘り井戸を掘る技術が発達する近世まで、漏斗状に掘り下げて井戸を作りました。このような井戸の一つが七曲井で、江戸時代まで使われていたことがわかっています。昭和45年(1970)に発掘調査が行われ、現在は復元されています。



38 堀兼之井 県指定 旧跡

直径 7.2m 深さ1.9m
堀兼神社

枕草子や千載和歌集に記載されている「堀兼の井」のひとつといわれています。





39 生越道々標

狭山市

この道標には、東川越道、西八王子道、南武藏野、北生越道と刻まれており、重要な道標であったことがうかがえます。



41 清水濱臣の墓

天岑寺

清水濱臣は、江戸時代中期の高名な国学者で、濱臣の父道円が、川越在田中村（現在の狭山市狭山）の出身という関係で安隱寺跡（廃寺）に墓があります。

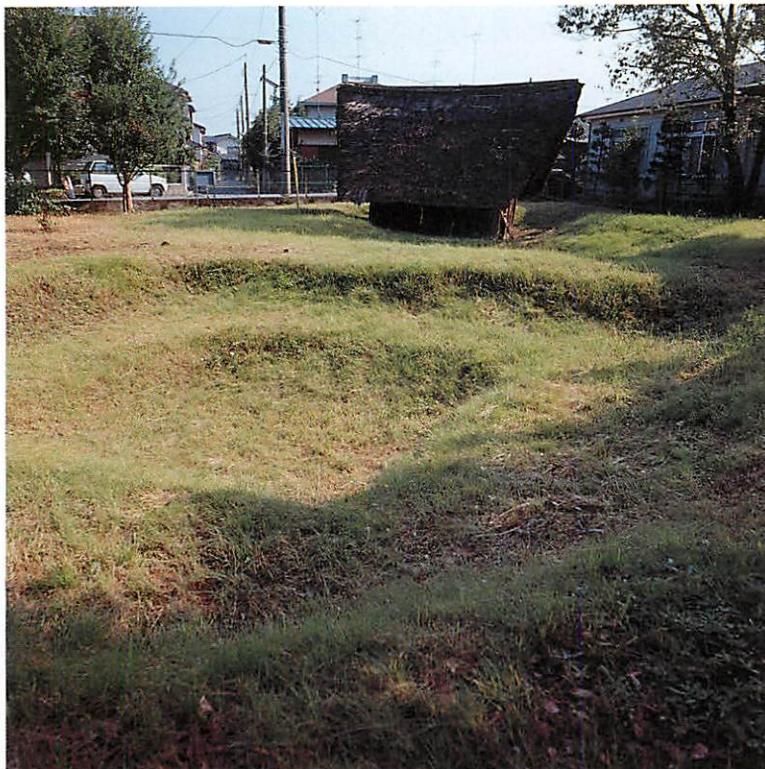


40 清水宗徳之墓

清水昌生氏所蔵

清水宗徳は、天保14年（1843）に上広瀬村で生まれました。私費を投じて暢業社製糸場を開設したり、入間馬車鉄道を一時経営するなど実業家であるのと同時に、県会議員や衆議院議員に選ばれるなど政治家としても地域発展のために貢献した人です。

この墓は、入間馬車鉄道が用いた2本のレールの上に建てられた珍しいものです。



44 今宿遺跡
いまじゅくい せき

狭山市

縄文早期から奈良・平安時代の遺跡（弥生時代を除く）で、昭和44年（1969）に発掘調査を行い数多くの住居跡や古墳がみつかっており、そのうち奈良・平安時代の住居跡3軒分が保存され、一軒復元されています。

45 城山砦跡
しろやまとりであと

小谷野利三氏／狭山市

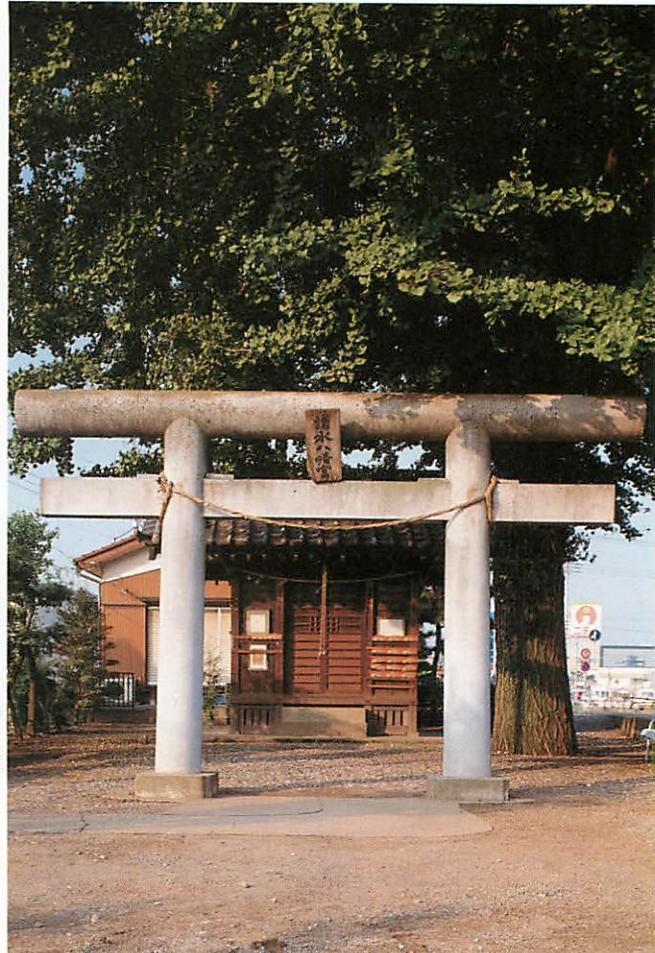
別名「上杉砦」ともいわれています。上杉朝定と北条氏康が川越城の攻防をめぐって戦った「川越夜戦」のときに、上杉憲政などが陣をはったとされるところです。



42 清水八幡
しみずはちまん

八幡神社

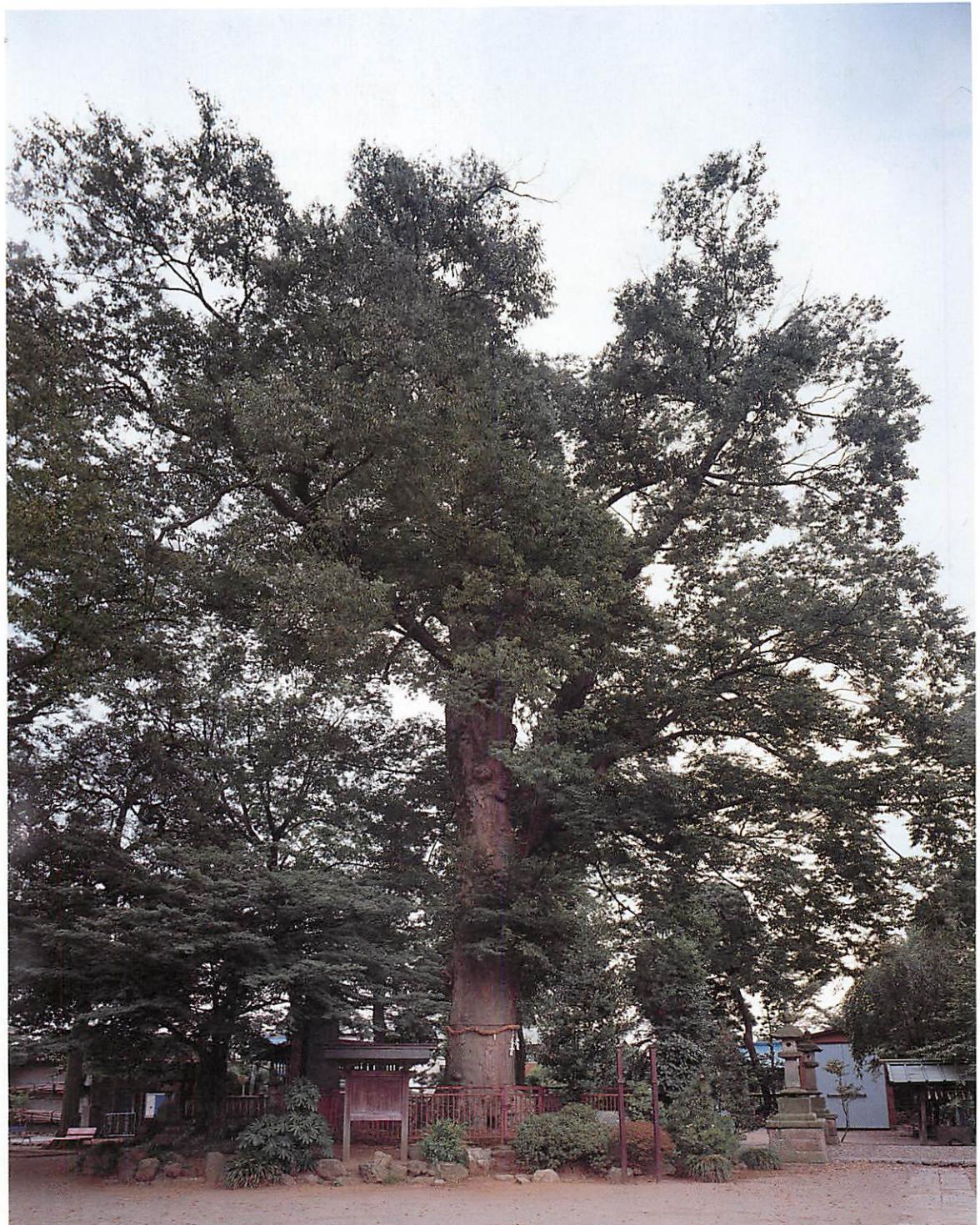
清水八幡は、入間川原で源頼朝の追手に討ち果たされた、源義高（木曾義仲の嫡子で源頼朝の女婿）をまつるためにつくられたと伝えられています。



43 影隠地蔵
かげかくしじぞう

狭山市

源義高にまつわる伝承のある地蔵尊です。頼朝の追手におわれた義高が、この地蔵尊の影に隠れて、難をのがれたとの言い伝えがあります。



ひろせ じんじやおおけやま
46 広瀬神社大櫻

樹高 約30m 樹周 6m
樹齡 約800年
広瀬神社



47 羽黒神社菩提樹

樹高 20m 樹周 2.9m

樹齡 約550年

羽黒神社

この菩提樹は葉が歪んだ三角形で、6・7月頃淡黄色の花をつけ芳香を放ち、ほぼ球状の実が葉の裏側に結ぶという珍しいものです。



48 バラモミ 県指定

堀兼神社

バラモミは松科に属し、福島県以南の山地に生ずる木です。この木は、平坦地に巨木として繁茂している珍しいものです。

指定文化財一覧

No.	指定	種別	名 称	員数	所在地/伝承地	所有者/保持者	管理者	指定年月日	掲載頁
1	市	絵画	紙本着色両界曼荼羅	2 幅	上奥富354-1	瑞光寺	吉川明彦	昭61.11.1	8 ~ 9
2	市		紙本地蔵十王図 (付他二幅)	13幅	根岸81	明光寺	佐藤盛秀	昭61.11.1	10 ~ 13
3	市		絹本着色釈迦涅槃図	1 幅	入間川2-3-11	徳林寺	山崎恵明	昭61.11.1	14
4	市		絹本着色釈迦八相図	1 幅	入間川2-3-11	徳林寺	山崎恵明	昭61.11.1	15
5	市		仙人の図	1 対	柏原1635	小谷野利三	小谷野利三	昭51.4.1	16
6	市		ねずみの図	1 面	柏原1059	西淨寺	本間隆正	昭50.3.1	17
7	市		桃園三傑図	1 面	上奥富508	梅宮神社	梅田稼吉	昭52.9.1	18
8	市		白鬚神社韋馱天の額	1 面	柏原1153-1	白鬚神社	宮本重信	昭50.3.1	19
9	市	彫刻	慈眼寺阿弥陀如来像	1 軀	入間川1-9-37	慈眼寺	西村宗洋	昭51.4.1	20
10	市		木造地蔵菩薩立像	1 軀	南入曾460-1	金剛院	清水亮一	昭61.11.1	21
11	市		銅造聖觀世音菩薩立像	1 軀	柏原1027	円光寺	田口和衛	昭61.11.1	22
12	市		木造聖觀世音菩薩坐像	1 軀	北入曾1366-1	常泉寺	市川隆昇	昭61.11.1	23
13	市		木造千手觀世音菩薩坐像	1 軀	上広瀬1604	禪龍寺	岡本泰男	昭61.11.1	24
14	市		木造宝冠釈迦如來坐像	1 軀	笛井455	宗源寺	牧野隆尊	昭61.11.1	25
15	市		木造不動明王及び二童子立像	3 軀	柏原2492	永代寺	小谷野照忠	昭61.11.1	26
16	県	工芸品	さはりの壺	1 口	入間川3-6-14	八幡神社	青田義雄	昭29.10.23	27
17	市		大水作鎗	1 口	柏原1656	増田順一	増田順一	昭61.11.1	28
18	市		梅宮神社鰐口	1 口	上奥富508	梅宮神社	梅田稼吉	昭51.4.1	29
19	市		御正体(懸仏)	5 面	柏原1153-1	白鬚神社	宮本重信	昭61.11.1	30 ~ 31
20	市		神輿	1 基	上広瀬1612	広瀬神社	宮本重信	昭61.11.1	32
21	市		野々宮神社古代甕	1 口	北入曾274-1	野々宮神社	宮崎道夫	昭51.4.1	33
22	県	書跡・古文書	篠井家文書	16通	笛井1485-3	篠井良勝	篠井良勝	昭34.3.20	34 ~ 35
23	市		広瀬村境界絵図面及び分見野帳	2 枚 1 冊	上広瀬1600	山崎滋夫	山崎滋夫	昭51.4.1	36
24	市		梅宮神社神号	1 幅	上奥富508	梅宮神社	梅田稼吉	昭52.9.1	37

No.	指定	種別	名 称	員数	所在地/伝承地	所有者/保持者	管理者	指定年月日	掲載頁
25	市	有民文化 形俗財	天岑寺月待供養の碑	1基	沢5-34	天岑寺	丹下玉専	昭48.3.1	38
26	市		絵馬「子返しの図」	1面	柏原1153	白鬚神社	宮本重信	昭61.11.1	39
27	県	無形 民俗文化 財	入曾の獅子舞		南入曾460-1/641	入曾の獅子舞保存会	栗原 優	昭54.3.11	40
28	県		梅宮神社の甘酒祭		上奥富508	梅宮神社甘酒祭保存会	平本英一郎	平4.3.27	40
29	市		広瀬囃子		上広瀬1612	広瀬囃子連	飯島敬一郎	昭52.9.1	41
30	市		入曾囃子		北入曾274-1	入曾囃子保存会	宮野正男	昭52.9.1	41
31	市		八幡神社鹿子舞		入間川3-6-14	入間川鹿子舞保存会	小川清一	昭46.4.1	42
32	市	無文化 形財	笹井豊年足踊り		笹井1962	笹井豊年足踊り保存会	平野忠男	昭52.9.1	42
33	市	建造物	八幡神社本殿	1棟	入間川3-6-14	八幡神社	青田義雄	昭48.3.1	43
34	市		天岑寺惣門	1棟	沢5-34	天岑寺	丹下玉専	昭48.3.1	44
35	市		広福寺山門	1棟	下奥富844	広福寺	野本亮広	昭48.3.1	45
36	市		隨身門及び二神像	1棟	堀兼2220	堀兼神社	新井精樹	昭61.11.1	46
37	県	史跡 ・ 旧跡	七曲井		北入曾1366	常泉寺	市川隆昇	昭24.2.22	47
38	県		堀兼之井		堀兼2220	堀兼神社	新井精樹	昭36.9.1	47
39	市		生越道々標	1基	下奥富496-3	狭山市	狭山市 教育委員会	昭50.3.1	48
40	市		清水宗徳之墓	1基	上広瀬976-1	清水昌生	清水昌生	昭55.6.2	48
41	市		清水濱臣の墓	1基	狭山531	天岑寺	丹下玉専	昭48.3.1	48
42	市		清水八幡		入間川3-35-9	八幡神社	青田義雄	昭52.9.1	49
43	市		影隱地蔵	1基	柏原204-1	狭山市	狭山市 教育委員会	昭52.9.1	49
44	市		今宿遺跡		上広瀬521-90	狭山市	狭山市 教育委員会	昭51.4.1	50
45	市		城山砦跡		柏原2376	小谷野利三 狭山市	小谷野利三 狭山市教委	昭48.3.1	50
46	市	天然記念物	広瀬神社大櫻	2本	上広瀬1612	広瀬神社	宮野仁太郎	昭50.3.1	51
47	市		羽黒神社菩提樹	1本	加佐志174	羽黒神社	梅田稼吉	昭48.3.1	52
48	県		バラモミ	1本	堀兼2220	堀兼神社	新井精樹	大15.2.19	52

協力者一覧（敬称略・順不同）

小谷野利三	八幡神社	入曾の獅子舞保存会
清水昌生	白鬚神社	梅宮神社甘酒祭保存会
篠井良勝	堀兼神社	笹井豊年足踊り保存会
増田順一	梅宮神社	入間川鹿子舞保存会
山崎滋夫	野々宮神社	広瀬囃子連
	広瀬神社	入曾囃子保存会
	羽黒神社	狭山市民俗芸能祭囃子連合会
	常泉寺	
	天岑寺	
	広福寺	
	西淨寺	
	徳林寺	
	円光寺	
	慈眼寺	
	金剛院	
	瑞光寺	
	永代寺	
	禪龍寺	
	宗源寺	
	明光寺	

参考文献

- ・狭山市文化財調査報告第9集「狭山市の社寺誌」狭山市教育委員会 昭和59年
- ・「狭山市史」中世資料編 狹山市 昭和57年
- ・「狭山市史」地誌編 狹山市 平成元年
- ・「狭山市の文化財めぐり」狭山市教育委員会 昭和63年

開館一周年記念特別展
狹山の指定文化財

発行日 平成4年10月24日

編集・発行 狹山市立博物館
〒350-13 埼玉県狹山市稻荷山1-23-1
電話 0429-55-3804

印刷・製本 光版社印刷株式会社

撮影 高梨智久
大熊郁男

